

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200122		
法人名	株式会社ハウスマガダ		
事業所名	グループホーム瀬名川 1F		
所在地	静岡県静岡市葵区瀬名川1丁目10-20		
自己評価作成日	平成23年8月26日	評価結果市町村受理日	平成23年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kai gokouhyou.jp/kai gos ip/ infomationPublic.do?JGD=2294200122&SCD=320&PCD=22>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成23年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護職員の意見に耳を傾け良く理解することにより、職員が精神的に日々充実して業務にあたれている。こうしたことが利用者様にとって安定したサービスを提供できる源になっていると考えます。利用者様が望んでいる事は、職員の資格より人格です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路には買い物に便利な商店、コンビニがあり、事業所はそこから少し入った車の通りが少ない住宅地の中にあり、安心して日常の散歩ができ、日々の活動に適した場所にあります。居室は全室南向きで、中庭には開業当初からの菜園があり、種から育てた収穫物を入居者と一緒を楽しんでいます。災害時は事業所を近隣の住民の避難先として提供し、水、食料の確保もできています。災害だけでなく、非常時の地域の方との協力体制ができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしい暮らしができる様に、ご家族様の意見を聞きながら事業所の理念をつくり上げている。	理念はホーム内に掲示してあり、管理者は定期的に新入職員採用時と年替り、不定期には職員が共有ができていないとみられた時に会議を開いて話し合い、共有実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々との意見交換し、交流の場などを提供している。	町内会に加入し、事業所についての理解が得られており、管理者は町内の福祉ボランティアに出席し、町内と交流している。入居者は散歩時に近所の人と挨拶をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に協力できることは協力し、気軽に声をかけて頂ける様に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見交換した事等(議題)は職員全体で共有している。	現在、1年に一度の開催で家族の参加は固定化され、利用者本人の参加がない。内容は報告事項で、参加者の討議にまで至らず、全家族への報告も行われていない。	実施方法を工夫の上、必要なメンバーを整え、2カ月に1回の開催されることが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからない事等は行政に質問や相談をしている。(解決できる様に指導して頂いている。)	生活保護の受け入れを実施し、質問や相談等は電話で連絡し、必要な各課との連携はとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族会で話し合い、ご家族の意見も聞きながら実施している。施錠に関してはチャイム音で職員が気づく対策と併用しながら実施。安全を優先しながら実施している。	「身体拘束0宣言」を事業所内に掲示し、拘束をしないケアに努めている。管理者、ケアマネジャーは外部研修に参加し、各職員に言葉で伝えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者およびケアマネージャーが施設内を巡回をして虐待防止に努め、職員からの意見も聞いている。		

静岡県(グループホーム瀬名川 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族様からの質問を受けると制度内容を説明して、専門家を紹介している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時、管理者とケアマネージャーが説明をして、その後担当事務員が入所及び退去の手続きをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者及びケアマネージャーが面会に来られたご家族様の話の聞く対応をとっている。ご家族様の意見等は現場に伝え、反映させるようにしている。	意見箱は特に設けず、家族が来所した時に意見を聞いている。来られない家族には文書で来訪を依頼している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見、提案を尊重して、現場に耳を傾ける様にしている。	リーダーや統括は職員から職場が働きやすいような改善の提案があると即実行して検証し、実践につなげている。現場のリーダーへ権限委譲ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の勤務状態を常に把握して社会保険労務士に相談、協力してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は時間の許す限り研修等に参加して、介護職員についても指導して、常に向上心を持つ様に努め、研修生も積極的に受け入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流のある施設とお互いに話し合いをしたり、訪問をしたりと、情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にフェースシートをよく読み、ノーマライゼーションを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と面談をして、課題を主治医に報告をして適切な指導を頂ける様に心がけ、支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	福祉理念に基づき、話し合いをし支援内容を伝える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分の意思で自己決定する能力を最大限引き出すことを考え介護している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思い等尊重しながら、お互いに意見を出し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	オープンな施設、オープンな介護を目指し、極力面会に来て頂ける様に声かけしている。	町内から数人の入居者があり、友人、知人、元部下が訪ねてくることがあり、気兼ねなく再訪していただけるよう声をかけをしている。年賀状や電話、手紙等の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全体で交流する場があるように配慮し、職員がひとり一人の間に入る対応をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様にも協力して頂いて、施設としても相談しながらフォローする体制をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様との話し合いのもとで本人の意思・意向を把握し、ご家族様にも協力をお願いをしている。	入居時のアセスメントから本人家族の意向を確認し、入居後は本人の様子から希望を申し送りノートに記入し、全職員が確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴等をご家族様からお聞きし、在宅時に関わりのある方々からも情報を頂き、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設内で従事している職員が日々状態を確認し、全員で意見交換に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	診療情報提供書やアセスメントをもとに職員や計画作成担当者が介護計画を検討する。	6ヶ月に一度モニタリングし、本人・家族の希望は面会時や電話で聞き、職員から状態確認をして介護計画を作成している。家族には1ヶ月に一度来所した時に説明して同意をもらっている。来られない家族には計画作成について事前に郵送で知らせ意向を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現場の職員が日々記録を記入し、変化等は主治医に報告し常に情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	四季に応じたイベント等をチームで考え、ご家族様にも協力をして頂き支援に取り込んでいる。		

静岡県(グループホーム瀬名川 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々に理解して頂くとともに民生委員、学生、ボランティアに協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医療機関を説明し、ご家族様には納得して頂いている。専門医に関しては当施設の主治医の指示にて対応している。	入居時に入居者全員は「かかりつけ医」を神経内科を標榜する提携医に変更している。月2回往診があり、必要に応じて医師の判断で他科の紹介状が出される。他科の受診は職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設されているデイサービスの看護師が定期的に健康チェックを行っている。また主治医の医療機関に属する看護師とも連携を取り、常時相談体制がとれるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医の指示にて専門医療機関と連携を取り、ご家族様に情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の指示のもと支援している。入居時にグループホームの方針を明記した文書をご家族様に渡し理解を深めてもらっている。	開業時Drから研修を受け、看取りの経験があり、入居時「看取りに関する指針」を渡し、家族と書面で意向の確認をしている。管理者は医師の指示で早めの対応に心がけ、事業所に泊まって支援に努めているが、マニュアルやその後の研修は実施されていない。	職員の精神的なケアを含めた終末期の研修、マニュアルの作成に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医に基礎知識を支援して頂き、緊急連絡網や緊急時マニュアルを作成し、全職員で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々にも協力を頂く体制をとっている。対応マニュアルがあり職員が熟知している。	春、秋年2回火災、地震、津波等全てを想定した訓練を行い、近隣の4名の方に協力いただける体制になっている。ヘルメット等の設置があり、水、食料、防寒の備蓄はできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念を心がけた言葉かけを行っている。	入居時、本人、家族から確認した呼び名で呼んでいる。プライバシーの研修はしていないが管理者は夜勤者からの日誌を読み、職員からの状況を確認してから、全職員の前で話し、共有実践につながるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ノーマライゼーションの理念のもと、なるべくオープンな介護の場の提供を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の自己決定能力を支援していく為に、その方の思いを共有しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様に協力して頂き、意見を取り入れ、ご本人にも確認しながら援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域スーパーに職員と一緒に買い出しに行ったり、準備をいっしょに行ったりしている。季節で献立を考える様にしている。	入居者は食材の買い物に同行、テーブル拭き、箸を並べる、下膳などできることに参加している。朝食と夕食は手作り、昼食はオーナーが経営する店から惣菜が届く。誕生日は本人の希望する献立を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量・水分量のチェックを行い、状態に合わせた対応を試しながら必要量の確保をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとり一人に合わせた口腔ケアの実施。適宜歯科受診し義歯の調整、修理、歯の清掃をしている。その際歯科医から指導をもらう。		

静岡県(グループホーム瀬名川 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを職員が把握して自立に向けた支援になるように努めている。	オムツの使用者は無く、布パンツにパッド、リハビリパンツにパッドを着用し、トイレで排泄している。夜間はポータブルトイレを利用している人もいる。入居前に失禁があり一部介助だったが、入居後は職員の支援で自立でトイレに行けるようになった例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体調を確認しながら身体を動かすこと(簡単な体操、散歩)、水分補給、食の改善等に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望やタイミングを考慮しながら気持ちよく入浴してもらえるように配慮している。	基本的には午前中、週2回入浴し、自立度が高く見守りの必要もない場合は、午後も入浴できる。同姓介助ではないが、羞恥心に配慮した介助をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の自由を尊重して休息の環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師の指導のもとすべて個人ファイルにデータを綴っており、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員が意見を出し合い、誕生日会、ドライブ等1か月のスケジュールを作成している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の体調を考慮しながら、散歩、ドライブ、買物への支援をしているがご家族様の協力も頂いている。	日常的に声をかけて、散歩や近くの店に買い物に出かけ、週1回は気分転換に車で買い物に同行するように支援している。家族の迎えが来て、外食、お墓参り、デパートでの買い物など実行できている。	

静岡県(グループホーム瀬名川 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の力に合わせてお金を使える様にし、金銭管理能力が低下しないように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思を尊重し、出来る限りやりとりができ、楽しみを持って頂くようにしている。電話は希望時職員がかけ、通じた後ご本人と代わる対応をとっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた作品を制作してもらい居間に展示したり、中庭に四季を感じる家庭菜園を設けている。	南向きに大きな窓があり、採光と風通しが良く、昼は四季を通して空調に頼らず過ごしている。壁には共同作業で作った作品が飾られ、入居者の家族が持参した花を飾ってある。入居者と一緒に働けるように想定して作ったという調理場は広く配膳スペースに余裕がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールを開放して利用者様同志が自由に利用できる場を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人をご家族に話し合いをして頂き、馴染みの物を引き続き使用してもらえるようにしている。	入居時に職員は家族に本人の意向と生活環境を聞き、畳の部屋を希望する人には畳を敷き、仏壇、冷蔵庫、暖房器具、使い慣れた筆筒等を持ち込み、その人らしい居室になることを促している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮し自立活動が保てる様な環境づくりをしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200122		
法人名	株式会社ハウスマガンダ		
事業所名	グループホーム瀬名川 2F		
所在地	静岡県静岡市葵区瀬名川1丁目10-20		
自己評価作成日	平成23年8月26日	評価結果市町村受理日	平成23年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kai gokouhyou.jp/kai gos ip/ infomationPublic.do?JGD=2294200122&SCD=320&PCD=22>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成23年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護職員の意見に耳を傾け良く理解することにより、職員が精神的に日々充実して業務にあたれている。こうしたことが利用者様にとって安定したサービスを提供できる源になっていると考えます。利用者様が望んでいる事は、職員の資格より人格です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしい暮らしができる様に、ご家族様の意見を聞きながら事業所の理念をつくり上げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域の方々と意見交換し、交流の場などを提供している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に協力できることは協力し、気軽に声をかけて頂ける様に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見交換した事等(議題)は職員全体で共有している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからない事等は行政に質問や相談をしている。(解決できる様に指導して頂いている。)		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族会で話し合い、ご家族の意見も聞きながら実施している。施錠に関してはチャイム音で職員が気づく対策と併用しながら実施。安全を優先しながら実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者およびケアマネージャーが施設内を巡回をして虐待防止に努め、職員からの意見も聞いている。		

静岡県(グループホーム瀬名川 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族様からの質問を受けると制度内容を説明して、専門家を紹介している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時、管理者とケアマネージャーが説明をして、その後担当事務員が入所及び退去の手続きをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者及びケアマネージャーが面会に来られたご家族様の話や意見を聞く対応をとっている。ご家族様の意見等は現場に伝え、反映させるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見、提案を尊重して、現場に耳を傾ける様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の勤務状態を常に把握して社会保険労務士に相談、協力してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は時間の許す限り研修等に参加して、介護職員についても指導して、常に向上心を持つ様に努め、研修生も積極的に受け入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流のある施設とお互いに話し合いをしたり、訪問をしたりと、情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にフェースシートをよく読み、ノーマライゼーションを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と面談をして、課題を主治医に報告をして適切な指導を頂ける様に心がけ、支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	福祉理念に基づき、話し合いをし支援内容を伝える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分の意思で自己決定する能力を最大限引き出すことを考え介護している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思い等尊重しながら、お互いに意見を出し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	オープンな施設、オープンな介護を目指し、極力面会に来て頂ける様に声かけしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全体で交流する場があるように配慮し、職員がひとり一人の間に入る対応をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様にも協力して頂いて、施設としても相談しながらフォローする体制をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様との話し合いのもとで本人の意思・意向を把握し、ご家族様にも協力をお願いをしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴等をご家族様からお聞きし、在宅時に関わりのある方々からも情報を頂き、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設内で従事している職員が日々状態を確認し、全員で意見交換に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	診療情報提供書やアセスメントをもとに職員や計画作成担当者が介護計画を検討する。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現場の職員が日々記録を記入し、変化等は主治医に報告し常に情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	四季に応じたイベント等をチームで考え、ご家族様にも協力をして頂き支援に取り込んでいる。		

静岡県(グループホーム瀬名川 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々に理解して頂くとともに民生委員、学生、ボランティアに協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医療機関を説明し、ご家族様には納得して頂いている。専門医に関しては当施設の主治医の指示にて対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設されているデイサービスの看護師が定期的に健康チェックを行っている。また主治医の医療機関に属する看護師とも連携を取り、常時相談体制がとれるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医の指示にて専門医療機関と連携を取り、ご家族様に情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の指示のもと支援している。入居時にグループホームの方針を明記した文書をご家族様に渡し理解を深めてもらっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医に基礎知識を支援して頂き、緊急連絡網や緊急時マニュアルを作成し、全職員で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々にも協力を頂く体制をとっている。対応マニュアルがあり職員が熟知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念を心がけた言葉かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ノーマライゼーションの理念のもと、なるべくオープンな介護の場の提供を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の自己決定能力を支援していく為に、その方の思いを共有しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様に協力して頂き、意見を取り入れ、ご本人にも確認しながら援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域スーパーに職員と一緒に買い出しに行ったり、準備をいっしょに行ったりしている。季節で献立を考える様にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量・水分量のチェックを行い、状態に合わせた対応を試しながら必要量の確保をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとり一人に合わせた口腔ケアの実施。適宜歯科受診し義歯の調整、修理、歯の清掃をしている。その際歯科医から指導をもらう。		

静岡県(グループホーム瀬名川 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを職員が把握して自立に向けた支援になるように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体調を確認しながら身体を動かすこと(簡単な体操、散歩)、水分補給、食の改善等に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望やタイミングを考慮しながら気持ちよく入浴してもらえるように配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の自由を尊重して休息の環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師の指導のもとすべて個人ファイルにデータを綴っており、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員が意見を出し合い、誕生日会、ドライブ等1か月のスケジュールを作成している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の体調を考慮しながら、散歩、ドライブ、買物への支援をしているがご家族様の協力も頂いている。		

静岡県(グループホーム瀬名川 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の力に合わせてお金を使える様にし、金銭管理能力が低下しないように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思を尊重し、出来る限りやりとりができ、楽しみを持って頂くようにしている。電話は希望時職員がかけ、通じた後ご本人と代わる対応をとっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた作品を制作してもらい居間に展示したり、中庭に四季を感じる家庭菜園を設けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールを開放して利用者様同志が自由に利用できる場を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人をご家族に話し合いをして頂き、馴染みの物を引き続き使用してもらえるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮し自立活動が保てる様な環境づくりをしている。		